

まえがき

今回は最初に紹介を兼ねてあらすじを書き、できる限り物語の根幹に触れないように講評します。全部の講評の後に作品の全体のネタバレ込みの感想をまとめて書くので見たい方はそちらもご覧ください。まだ本編を見てない方にとっては楽しみを失わせてしまうことに他ならないと思いますのでその部分は見ないようにご注意ください。※今回は7作品紹介します

1. 五等分の花嫁（14巻完結 アニメ2クール＋映画）

作者：春場ねぎ

あらすじ

高校二年生の上杉風太郎は貧しい家計を支えるために学年トップクラスの頭脳を生かして家庭教師をすることになった。しかし、その生徒は同じ高校に通うことになった五つ子の姉妹（中野一花、二乃、三玖、四葉、五月）だった！しかも全員落第寸前の問題児！果たして、風太郎は無事に家庭教師ができるのかということから始まるラブコメ。

講評

私がアニメにはまるきっかけとなったくらい魅力的な作品です。この漫画の魅力は何といっても五つ子である。それぞれ五者五様の性格をしているのでそれぞれ推せる子がいるはずだし（私は二乃推し）、また五つ子で顔の見分けがつかないことからそれぞれの姉妹に変装できるという五つ子ならではの設定が要所に使われており、ほかの漫画にはない展開を生んでいる。第一話で風太郎と五つ子の誰かが花嫁になる描写が描かれており、その花嫁がどの子なのかを考えながら読めるという点で面白い作品であり、伏線も豊富なので読んだ後も新たな発見ができる作品になっています。

このアニメ・漫画をこれから見る、関連するゲームをやる方がいれば次のような順番をお勧めします。あくまで個人的なおすすめですが…

アニメ1期 or 単行本4巻まで⇒アニメ2期⇒（ゲーム1）五等分の花嫁～夏も思い出も五等分～⇒単行本11巻～ラストの14巻まで⇒映画「五等分の花嫁」

⇒単行本の見えていない巻を見る、(ゲーム2)映画「五等分の花嫁」～君と過ごした五つの思い出～

アニメ1期に関してはカットされたシーンがあまりなかったのですが作画崩壊が多かったらしいので気になる方は漫画で見るのがいいかと思います。ですが声優さんが全員素晴らしいのでアニメで見るのもおすすめです。2期に関してはカットされたり、順番が前後したりしたシーンがありますが、話の流れ的には大きな問題はないと思うし、声付きの方がドキドキできる部分があるので個人的にはアニメでまず見るのがいいかなと思います。

ですが、映画に関しては話が大きく違ってくる部分があったので、漫画でまず話を追ってもらってから映画をみるとより楽しめると思います。ゲームに関してはゲーム1の方が2期ラスト後の夏休み、ゲーム2が文化祭のラストシーンから卒業旅行での話なのでそれぞれの話を本編で見終わってからやるのがおすすめです。ゲーム1の方はシーンを見るために作業しなきゃいけず少し大変でしたが、ゲーム2は本編ではない別の子が花嫁になった if ルートも見ることができるので特におすすめです。

あとこの漫画は人気作であるので本編の楽しみである花嫁のネタバレがネットのそこら中にあるので、読み始めたらできるだけ早く読んじゃってください。

2. ぼくたちは勉強ができない (21巻完結、アニメ2期)

作者：筒井大志

あらすじ

高校三年生の唯我成幸は学校からの特別VIP推薦を勝ち取るためにその推薦を出す条件として教育係を任命される。その相手は理系の天才ながらも文系の大学進学を目指す緒方理珠と文系の天才ながらも理系の大学進学を目指す古橋文乃であった。二人は得意でない方の勉強はからっきしであったため最初成幸は二人に進路の変更を促すものの、二人の夢を聞いて二人の希望する大学への進学を叶えるため奮闘することにする。ことから始まるラブコメ。ただヒロインは二人だけではなく、水泳の天才でスポーツ推薦を狙うが勉強ができず、その選好に英語を使うことから新たに成幸が教育することとなった武本うるかななどもおり、目が離せないラブコメである。

講評

この漫画は主人公が教える立場にある点やヒロインが5人であるという点で五等分の花嫁と設定が似ているので五等分好きなら好きになれるのではないかなと思います。また、ヒロインが同級生だけでなくいろんな立場の人がいて、それぞれの違った境遇で生きてきたのでその点が描かれているのがいいです。それぞれ if ルートが本編で描かれており、誰を推したとしても幸せな結末が見られることがよい物語です。アニメで見ても面白かったですが、ただアニメ2期の最終話の後半に関してはいろいろと省略しすぎなので、そこからはあまり鵜呑みにせず単行本でじっくり見るのがおすすめです。

3. いじめるヤバイ奴（現16巻 連載中）

作者：中村なん

あらすじ

仲島はいじめっ子としてクラスのみんなを脅かしていた。その対象となっていたのは白咲花というか弱い女の子。そのいじめを撲滅しようと田中が動く！しかし、そのいじめの実態は白咲から仲島に指令されたことによるものだった！仲島が白咲から逃れるために奮闘する異色の物語！

講評

この漫画は最初の方はどうしてそんなことをするのかを解明して逃げようとする話なのかとも思うかもしれないが今最新巻まで読んでそれは違うといえます。単行本4巻の修学旅行編まで読むとこの漫画の面白さがとてもわかると思うのでタイトルなどからあまり初見では手に取られないかもしれないですが、そこまで読んでから面白いかどうかを判断してほしい作品です。白咲さんや青山さんなどの強い女子たちの活躍や、熱い友情、アクション要素が豊富なこと、敵となるキャラの成敗が何よりも痛快で気持ちがよいことと、この漫画独特の設定やギャグが急角度過ぎて笑いをこらえずには読めないことがこの漫画の魅力になります。

4. かぐや様は告らせたい～天才たちの恋愛頭脳戦～

(現 27 巻連載中、28 巻完結予定 アニメ 3 期+映画公開予定)

作者：赤坂アカ

あらすじ

生徒会副会長の四宮かぐやと生徒会会長の白銀御行は惹かれ合っていた。しかし、お互い「恋愛は告白した方が負け」という認識がありお互いが相手に自分を好きと言わせるために奮闘する学園ラブコメディ。

講評

この漫画はコメディ要素が多く、笑ってしまうシーンも多いのですがシリアスなシーンでしっかり話を動かしていき、緩急のよくなっている、見ていて飽きないラブコメになっています。特にアニメの三期が終わったあたりのところから状況が大きく変わり、新たな展開になっていたのですが、ほかのラブコメ漫画ではその状態を描写することがあまり見たことないので斬新でした。かぐやはもちろんほかの生徒会メンバーである藤原千花や石上優などについての話などもしっかり描かれていており素晴らしいです。

関連作品の「かぐや様を語りたい」ではメインではあまり出てこないキャラクターを中心としてメインのキャラクターたちの裏話が描かれているので併せて読みたい作品です。

5. ジョジョの奇妙な冒険 (漫画第八部まで完結 全 131 巻 第九部も

予定されている アニメ第五部まで放送済み、第六部は途中) ※私が五部までしかしっかり見られていないのでそこまでの講評とします。

作者：荒木飛呂彦

あらすじ (第一部 ファントムブラッド)

貴族の一人息子であったジョナサン・ジョースターは幸せに暮らしていた。しかし、ある日ジョナサンの父親の養子としてディオ・ブランドーがやってくる。そこから日常は大きく変わっていく。ある日ディオはジョースター邸にあった

石仮面をかぶり不死身の吸血鬼になってしまう。そのディオを倒すために吸血鬼に対抗できる太陽のエネルギーを使った波紋の呼吸の修行をし、師匠のツェペリらとともにディオに立ち向かっていく物語。

講評

ジョジョに関してはキャラクターの特徴的なポーズである「ジョジョ立ち」や「だが断る」、「そこにシビれる！あこがれるウ！」などの名言、【To be continued】などで知っている人は多いと思います。ジョジョは部ごとに主人公が変わっていく話で、先ほどあらすじで紹介した第一部ではジョナサン・ジョースター、第二部はジョナサンの孫のジョセフ・ジョースターというようにジョースター一族の話が続いていく話です。

ジョジョの魅力は私は「死」だと考えます。少しネタバレをしてしまうとジョジョの物語は味方になった人でも結構死んでしまうことがある物語です。その分死の描き方は素晴らしくてその死にざまのカッコよさと死の悲しさの伝え方はジョジョが随一なのだろうと思います。

一番有名なのは空条承太郎が主人公となる第三部のスターダストクルセイダースですが、第一部や第二部から見た方が話の順番的にも読みやすいですし、第三部はラストにかけて物語がどんだんいいシーンが増えていくのですが最初の方は少し冗長にも感じるかもしれないので短くジョジョの魅力がわかる第一部、二部から読んでみるのがおすすめです。

またジョジョアニメのオープニング主題歌は歌もそうですが映像の作りこみがすごいのでぜひ見てください。とくに部のラストらへんになったら必見です！

6. 阿波連さんははかれない (15巻連載中、アニメ1期)

作者：水あさと

あらすじ

ライドウの隣の席の阿波連さんは人の接し方がはかれない女の子。ライドウが阿波連さんの消しゴムを拾ったことをきっかけに阿波連さんが急にライドウと距離を詰めてくる。そこから始まるゆるゆるラブコメディ。

講評

この漫画は阿波連さんとライドウのゆったり進んでいくラブ要素も魅力だが、

個人的にはコメディ要素が突き抜けて面白いと感じます。阿波連さんは普通に過ごしているのに、その阿波連さんの行動から妄想して話をあらぬ方向に考えてしまうライドウの妄想力が何よりも素晴らしいと思います。その妄想の内容もなぜそこからそう考えると突っ込みを入れたくなるような急角度かつなんだか現実の要素を含んでいるものだから面白い。主人公の二人は表情があまり出ない設定なので、顔の表情を使った表現はあまりないですが、その分重要なシーンでの表情の変化が際立つし、阿波連さんの平和な世界観をその表情が作り出しているのかもしれないなとも思います。

7. WORKING!! (13巻完結、アニメ3期完結済み)

作：高津カリノ

あらすじ

小さいもの好きの小鳥遊宗太は同じ高校の先輩で背丈の小さい種島ぽぷらに勧誘されワグナリアというファミレスでアルバイトを始める。しかし、そのバイト先は働かない店長白藤杏子、なぜかいつも刀をもっている轟八千代など個性的なメンバーだらけであった！そのバイト先でのドタバタコメディ。

講評

この物語はあらすじにも書いた通り、登場人物が特徴的で見ていて飽きないです。なのに、主要メンバーの出自のバランスが非常によく、登場人物の個性が活かし切れていると思います。常に明るい作品なので元気を出したいときにはいいアニメかと思います。またラブ要素もあり結構面白いです。

またオープニングの曲は女性メンバー、エンディングは男性メンバーによってうたわれていて、とても WORKING!!の世界観にあった元気な曲ばかりなので是非聞きましょう。

※次ページからネタバレ感想編

ここからの目次

五等分の花嫁… 1 ページ

ぼく勉、いじやバ… 2 ページ

かぐや様… 3 ページ

ジョジョシリーズ（1～5部までそれぞれ）… 3 ページ後半から 4 ページ

阿波連さん、WORKING… 5 ページ

ネタバレ込みの感想編

1. 五等分の花嫁

一番好きなシーンは攻略開始の二乃のシーン。バイクでの「好きよ」でこちらの気分を盛り上げつつ、バイクで告白が聞こえなかったオチで終わらせるのかと読者に思わせといてからの二度目の告白。そしてそこからの「あんたみたいな男でも好きになる女子が世界で一人くらいいるって言ったわよね それが私よ 残念だったわね」という前のエピソードである「七つのさよなら」でのセリフを踏まえつつ二乃らしい強気な告白になっていて最高だと思う。またこの現場に一花が居合わせており、ハラハラもさせてくるシーンである。このシーンを何度見返したことか…

あとは五つ子たちのキャラの魅力が素晴らしい。一花は最初は三玖に悪いと思いつつも風太郎にだんだん惚れていってしまい、修学旅行での暗躍につながってしまう。あそこまで嘘をついたのはかなり驚きでしたが、物語を非常に面白くする要素になっていてすごくよかったです。二乃はアニメ一期のオープニングの歌詞にある「大嫌いから大好きへと」を体現するようなキャラクターで攻めて攻めまくるスタイルが素晴らしい。三玖は内気だけど風太郎に告白する契機とするために勉強を頑張ったり、料理の勉強をしたりなどと努力ができる人であり、不器用ながらも頑張る姿が印象的であった。修学旅行ではかなりかわいそうだったがラストの自分の好きなものをどんどん言っていく最後に風太郎のいる方角に向かって指差し「好き」というシーンがたまらない。四葉は最初から風太郎にやさしかったが、恋ということに対しては修学旅行まではあまり思いを寄せるようなシーンがなかったが、過去編で四葉だけ落第した暗い過去、そして写真の子であるということが明かされ一気に物語が加速して面白かった。また要所所でブランコが出てきたのも最後の風太郎のプロポーズの伏線的な感じに

なっていてよかった。五月はキスが明確には描かれていなかったり、少しだけ恋するシーンが少なかったように感じたのが気になりますがプール回の「秘密の痕」の話では少しドキッとしていたし、文化祭の後に恋心について考えるようになっていたりなどそのケアもできていたように感じます。また、ゲームの「ごときす」で、本編のルートではないけど五月が風太郎に恋する場合も観られるのでこちらも必見です。また、伏線が多く、いろいろ気づけるのも楽しくてよかった。四葉の「うーそー」と最後の「上杉さんには嘘をつけません」での四葉と風太郎の体勢が一緒なこととか、結びの伝説 2000 日目とか、リボンをつけた理由などの伏線がめちゃ素晴らしく思いました。また読んでいて、四葉だけ、なんでここまで最初から優しいのかや、なぜ部活に勧誘されたのに断ったのかなどが疑問として気になっていた時期があったが、四葉の過去編を見たことでその疑問も解決できており、疑問もほとんど残らないのではないかと思います。残るとすれば一花が学校を卒業できていたかが本編だけだとになっていますが、こちらも「ごときす」の方では卒業したということで解決していると思われるのでマイナスも少ないように思います。

2. ぼくたちは勉強ができない

古橋文乃の If ルートでの告白シーンが個人的には一番好き。古橋が成幸の存在が最初は家庭教師の先生だったのが時を経て変化していき、今では「世界で一番すきなひと」になったという過去のシーンを振り返りつつの告白。それに対して成幸は古橋が星が好きなことから満天の星空の見えるところで、さらに床に電球を張り巡らせ空も地面も星で埋め尽くした素敵な世界を作り出しての告白。星好きという設定だからこそ描けるとても素敵な告白シーンだと思います。個人的にはラストの三巻（19・20・21 巻）の if ルートはかなり素敵で何度も読み返してしまいました。

3. いじめるヤバい奴

目が離せないのは通称カラーズとも呼ばれる苗字に色の名前がついている女子たち。

白咲さんはアイスピックでの処刑シーンでの「なにごと？」から感じるチート感

がえげつないし、青山さんは仲島を愛する気持ちから繰り出される攻撃がかっこよくてえげつないし、緑田はどんな攻撃を受けても傷つかないからえげつない。特に生徒会選挙編での緑田がどんな攻撃にもひるまないし、なおかつもっといじめろと言ってくるという狂気的な状況に笑ってしまいました。

またそのカラズの裏で田中率いる新選組の活躍も激アツ。いつもは廃人化している加藤が覚醒して、敵となるキャラを気持ちいいくらい熱く成敗してくれるし、倒した敵が仲間になっていく少年漫画的要素も詰まっているし、とにかく盛沢山すぎてみてて飽きない漫画になっています。vs 薬師丸とかは岩瀬がかっこいいのはもちろん、加藤のストップウォッチで五分で廃人化してしまうと薬師丸に思わせといて、五分経ったあとに覚醒の体になじんだ加藤が強烈な一撃を与えたシーンは維持や場の中でも屈指のシーンであった。

ネタ的にも岩瀬が前川家にいったらクマとバトルさせられたり、急に栗原が驚いたり常人には意味不明だけどこの漫画なら許せちゃうぶっ飛んだ設定が最高の漫画です。

現在の最新話あたり（190話あたり）でこの物語の根幹となりそうなところのテーマを扱っているなのでそこでどれくらい謎がわかるかが注目です。もしかしたら最終回が近いのかもと思っています。

4. かぐや様は告らせたい

伊井野が誰かにつけられているような気がするため伊井野の家まで石上が付き添うシーンがとても素敵。伊井野が登場したときは犬猿の仲であった二人なので想像つきませんでした。だんだん惹かれ合っていく、ついにはお互いに意識するまでになっていた二人。このシーンでは伊井野を無事に家に届けたので帰ろうとする石上を伊井野が止め部屋に行くシーン。この途中途中で移る伊井野の顔がとてつもなく繊細にかつかわいく描かれていてグッとくる。最後石上の手を頬にあてるところが特に最高。

物語の全体を通してかぐや様のいいところはハッピーエンドで終わらないところ。付き合うまでを物語として描くものが多いがそれで終わらず、付き合っからの展開を描いているのが他と違ってよかった。そのこともあってかマンネリというものが一切なく、常に展開が進んでいてよかった。

またキャラの成長という面も見られるのがこの漫画のいいところ。特に石上優。

最初は生徒会にたまにしか来ない、かぐやを怖がるネタ的な存在として登場。しかし、時が流れるにつれ性格も変わっていきあるとき応援団に所属することになる。応援団の練習には精を出し頑張っていたが、しかし壮絶な中学時代の事件が体育祭中にフラッシュバックしてしまい自信を失う。だが生徒会メンバーに気合を入れなおしてもらい過去を断ち切ることに成功する。過去を断ち切った先には今まで見えてなかった応援団メンバーの顔（過去を断ち切る前のコマでは応援団のメンバーは目が書かれていなかった）を見ることができるようになっており石上が変わったことがよく実感できるいいシーンだと思う。

5. ジョジョの奇妙な冒険

まとめるのも違うと思ったのでそれぞれの部で答えます。

一部

戦いのシーンもブラフォード戦で海の中に眠る空気を吸って波紋を打つなど面白いところはあるが何とんでもラストのハネムーンの船でのシーンが衝撃的。まさかのディオが生首状態ではあるが生きており、ジョナサンがディオの攻撃を受け致命傷になってしまい、そのままディオの生首を抱えたまま死ぬというまさかの主人公が死ぬ等いう終わり方。ものすごく斬新だと思う。また死に方も主人公とボスがともに死んでいくというのはほかの漫画にはないと思われます。この死に方だったことで三部でのDIOの復活にもつなげられてるのもいい。

二部

なんといってもシーザーVSワムウのシーンがいい。シャボンカッターグランディングなどシーザーの戦闘シーンがまずかっこいい。そしてシーザーの戦闘者としてシーザーを認めたワムウはシーザー最期に残したシャボン玉を壊さない、これは敵キャラでありながらかっこいい。そしてリサリサがシーザーが死んだであろうことに対して平静を装おうとするもタバコを逆向きにしてしまうことによって動揺を隠せないことを表すというものすごく高ぶるものがあるシーンである。誰もが「シィィーザァァァー」と叫ばずにはいられないでしょう。

三部

VSヴァニラ・アイス戦がすごくいい。スタンド能力で触れたものは暗黒空間に放り込まれるという能力を前にアブドウルが倒れてしまう。ポルナレフとイギーは共闘するもイギーのスタンドでヴァニラの主人であるDIOになりすます作

戦を失敗しイギーは激しく痛めつけられてしまう。ポルナレフも戦いで足を怪我して思うように動けない。そこでヴァニラが戦っている部屋をしらみつぶしに攻撃し絶対に避けられないような攻撃を仕掛けてきてポルナレフはイギーに後を託そうとする。しかし、イギーは最期の力を振り絞りポルナレフを救い、力尽きる。ポルナレフはそこでイギーが大事だったことに気づく。その後ポルナレフはヴァニラに勝利する。そのあとイギーとアブドゥルの魂が昇天するシーンがほんとに感動する。

最初は敵キャラとして登場し、仲間になった後もすぐには好きになれるキャラではないと思うがアブドゥルが死にかけるシーンで仲間の死に涙したシーンを起点にポルナレフというキャラが普段はおちゃらけつつかつ大事な時には活躍するとても重要なキャラとなり最終的にはここまで感動させてくるのかと感心しました。

四部

この部の何といっても外せない魅力は吉良吉影という存在が奇怪でいい。三部までのボスは頂点に立つこととかを目指す帝王的ないわゆるボスという感じであったが、吉良吉影は平穏な生活を望んでいる殺人鬼という一味違うボス。「激しい「喜び」はいらぬ……そのかわり深い「絶望」もない……「植物の心」のような人生を……そんな「平穏な生活」こそわたしの目標だったのに……。」ボスとは思えないセリフである。また能力も触れたものを爆発させる「第一の爆弾」、自動追尾爆弾の「シアハートアタック」、主人公一行をかなり追い詰めた「バイツァ・ダスト」など多種多様であり、この能力に対し主人公一行がどう立ち向かうのかというのを見るだけでもかなり面白い作品である。また三クール目のオープニング主題歌の **GreatDays** が最期の川尻との闘いになったときに変化しバイツァ・ダストの時を戻す能力をうまく表現しかつ少し絶望の要素もおわせるすごくいいオープニングになっていてものすごく感心した。

五部

対プロシューター&ペッシ戦が見物。最初はどこか抜けており戦うことにおいて少しおびえていたペッシだったが兄のプロシューターが追い詰められ瀕死になったときにプロシューターがそれでもまだあきらめない姿勢を見せた時ペッシの中の覚悟が決まり、格段に敵として強くなったシーンは読んでてかなり楽しかった。他の部でもそうだがジョジョシリーズはだいたい追い詰められててもう無理

だと思っても何とかなくなってしまっているからこれまた面白い。このシーンでもブチャラティは体がバラバラになってしまいもう無理じゃんと思ってたが、生還して、ペッシを処刑。アリーヴェデルチ！

またボスの結末として永遠に死に続けるというのがいかにもジョジョらしくてよかった。

6. 阿波連さんははかれない

感動という意味では大城さんから果たし状をもらったライドウが大城さんとのオセロ対決をするが、大城さんがオセロに勝ったらライドウが阿波連さんに近づかないことを誓わせるための果し合いだと知るとライドウがそれまでの劣勢を覆し、勝利。そしてそれを見た阿波連さんがキャンプのときには言えなかった好きという気持ちを普段は見せない笑顔で言うシーンがよかったが、この漫画のいいところはやはり何とんでもライドウの妄想ネタである。

アニメではれんくんとライドウの買い物のシーンが印象深い。姉からもらっていた財布を落としてしまったことに気づいたれんくん。しかし、お菓子を買いたい。そこで、れんくんはあたりを見回す様子を見せる。この時見ていた私は万引きを妄想しそうだと思ってしまった。しかしライドウの妄想内容はまさかのリボ払い。気づかないうちに債務がたまってしまうことのリスクを妄想していた。まさに意表を突かれてしまった。

7. WORKING!!

ほんとにこのキャラ出白薄くねと思うキャラがほとんどいないバランスがものすごくいいアニメ。主要メンツがそれぞれしっかり目立っている。佐藤と轟のなかなか佐藤が一步を踏み出せないことでなかなか進展しないものの、だんだん轟の方も佐藤に対する思いが変わっていく過程がものすごく見ていて楽しいものでした。また男性恐怖症だった伊波が小鳥遊に惚れ、そこから小鳥遊の行動にどぎまぎしたりする姿はとてもかわいらしく、最終的にはあの小さいもの好きの小鳥遊に恋心を実感させてしまうくらいなんですからっすごいものです。また小鳥遊家の姉妹、山田の兄の桐生くんなど様々なキャラが出てきますがどのキャラも憎めないいいキャラクターになっていてここまで平和的で見ている楽

しい気分になれるアニメがあるということに感動していました。
後これは僕だけかもしれないのですが三期のエンディングの「まつげに LOCK」
のサビで主要メンバーが踊るシーンに胸が踊りました。

以上です。